

長浜乳牛の歴史をさぐる

岡山県長浜家畜保健衛生所

近年酪農はとみに盛んとなり、いまや全県下に普及してまいりました。このほど恐らくは県下の酪農の発祥地であろうと邑久郡長浜の酪農の盛衰について、たまたま一長老よりその全貌を聞く機会をえ、誠に意義あるものと考えられましたので、ここに紹介する次第です。

この老人は邑久郡牛窓町長浜に住まい現在もなおご老体に鞭打って酪農に心魂を傾け、後進の指導に当っておられます。

長浜は邑久郡の東南部を占め、南は瀬戸内海に面し、西北は山野に囲まれた丘陵で、平坦地は近年開拓せられた長浜湾干拓地を有する、西南暖地特有の畑作酪農地域を形成しています。

夕涼の一夜、風鈴のさわやかな音色と小豆島に散在する灯火を背景にして、長老は夜の更けるのも忘れて長浜酪農の過去についてじゅんじゅんと語られました。

『明治12年村の先覚者（時実恵三郎氏）が副業として、阪神方面より黒白斑のホルスタイン種1頭を購入し、約7升の牛乳を搾った。これが邑久郡酪農の第一歩で、いわゆる長浜乳牛の起源とされている。』

明治15年射出竹太氏は、牛馬商兼乳屋を開始し、牛乳の販売と乳牛の導入に当り、主として病人用の飲料として牛乳の利用価値を高め、広く普及に専念した。

明治25年乳牛の飼育者は25戸に達し、毛色の変ったエヤチャー種の飼育も行われた。

33年ホルスタイン種牝牛を長浜の地に繋養し種付けを始めると共に、牝牛の直輸入を行ない。漸く本格的酪農の形態を整えて来た。翌34年はこの地区の酪農が飛躍的に伸びた年で、当地産の牝牛が愛知県に種牝牛候補として販売され、更に各方面から牝牛の注文が殺到する有様であった。長浜村は共同放牧場3カ所を設け、主として仔牛の育成に意を注ぐ結果となった。当時大阪方面へ孕牛として計画的に移出し、長浜乳牛として重宝がられ、牛舟が栗利郷の港

に出入りし活況を呈していた。

明治38年直輸入種牝牛2頭が導入され、孕牛の生産育成は一段と高まり、既にこの頃100頭近くの乳牛が飼育されていた。

明治末期の42年に至り、農家は恐怖のどん底に落ち入る結果を招来した。それは上房郡松山市場より購入した和牛に疑似牛疫の診断が下され、県より係官が派遣され、警察署員と共に防疫にあたられる一方、飼育者は淋しい山林に一時の雨露をしのぎ、山中の御堂に寝起きすること20余日、その間心配と恐怖は全く生きた心地もしなかった。

変遷きわまりない明治時代の一頁は、大阪商人の援助と、畑作から生産される自給飼料により、酪農推進の基礎を構成し、益々その意慾をたぎらせ大正の世代へ脱皮して行った。

大正5年岡山種畜場においてバター製造講習会が開かれ、村内有志2名が受講し、翌年長浜センターにバター工場を建設することができた。同年第1回の長浜畜牛共進会を開催し、改良増殖の決意を益々強固にした。

大正10年岡山練乳株式会社が豊村浜に創設され、雨の日も風の日も約5石の牛乳を中車3台分に分乗し、運搬を開始した。

大正12年畜牛結核検査が実施され、郡内750頭の内、長浜村の受験頭数は270頭に達し、今もこの頃の頭数は比較的材料にされている。同年高等登録1ヶ月検定において最高日量2斗3升5合を搾乳し、見事な合格牛を産出するに至った。

昭和の初期に至り乳業会社の拡充と変遷はめまぐるしく、昭和3年有志相はかり尾張において酪農大会を開き、1口100円の出資にて不振の邑久練乳を再建したが、経営不振と不景気の風波は強く、乳価1升当80銭のところ、運賃40銭を要する始末で、欠損を覚悟の上で死闘を続けた。

この秋昭和5年、岡山県下に陸軍特別大演習が行われ、天皇陛下の勅使として侍従職が会社に御立寄りになり、当時関西第一の乳量を誇っていた長浜牛

岡山畜産便り 1961.08

の第10ヒジंगा号が天覧の光栄に浴し、陛下の御料乳として同牛の生乳を献上し、村を挙げて酪農振興に発奮した。

昭和7年会社は淡路練乳に引き継がれ、生乳品質の取り締まりが強化され、長浜共同搾乳所を新築し、更に奥浦、小津に集乳所設け専ら牛乳の品質向上に努めた。

昭和14年乳牛の不受胎牛が目立ち、郷土出身の横山代議士に依頼し、県より5名の技師立会の下に調査した結果、トリコモナス原虫を発見され、明治42年の牛疫に次ぐ大防疫作業がくり広げられた。

昭和15年頃より高等登録牛の申請が相次ぎ、当時すでに村内に体格審査80点以上1頭、76点以上5頭を保有し改良の意慾は旭東随一であり、県共進会においても当時上位入賞牛を産出する状況であった。歴史に輝く長浜乳牛の代表は第10ヒジंगा号に始まり、ホワイトトリレーレニー号、エロニーオームスビー第7号を産出し、更にマーチェサトライユンヴィーマン号、マーチェサーイスメーオクローモント号を生み、その伝統は脈々として戦後の乳牛に生き、日々その生産は向上の一途をたどっています。』

老人はごくりと冷たいお茶を飲むと、しわがれた言葉を一層強くして、「竹藪の竹の長さは変らねど筋ある竹は太き芽を出す」とむすばれました。

瀬戸の島々の灯は消え失せて、七夕過ぎのやわらかい月明かりに白く波がおどっていました。

長浜乳牛のあゆみ（大東亜戦争まで）

- 明治12年 時実恵三郎氏乳牛ホルスタイン種を導入す
- 〃15年 射出竹太氏牛馬商業兼牛乳屋を開設す
- 〃25年 馬場嘉三郎氏エヤーシャー種を購入す
- 〃33年 馬場嘉三郎氏直輸入牝1頭を購入す
- 〃33年 馬場嘉三郎氏種牡牛を繁養し種付を開始す
- 〃34年 馬場嘉三郎氏育成の牡犢愛知県種牡牛として移出す
- 〃38年 共同放牧運動場3ヶ所設置さる
- 〃42年 米国より種牡牛1頭を導入し野口金蔵氏管理種付を發す
- 〃42年 疑似牛疫発生す 松尾伊三郎氏種牡牛を購入し種付を行う

大正5年 岡部種治、射出保太郎氏バター製造講習会

受講

- 〃6年 神戸市小谷氏バター工場を小津に設立す
- 〃6年 第1回畜牛共進会開催 於中村
- 〃9年 時実京蔵氏バター製造開始
- 〃10年 豊村浜に岡山練乳株式会社を建設
- 〃11年 第2回村畜牛共進会開催 於就将小学校
- 〃12年 結核検査 270頭受験
- 〃12年 広畑長七郎氏飼養第10ヒジंगा号高等登録1ヶ月検定に合格
最高乳量2斗2升4合産出
- 〃12年 山本寛氏飼育ホワイトトリレーレニー号高等登録1ヶ月検定に合格
最高乳量2斗3升5合産出
- 昭和2年 長浜畜産会を結成
- 〃5年 陸軍特別大演習に際し第10ヒジंगा号は天覧に浴す
- 〃7年 共同搾乳所を設ける
- 〃13年 小津、奥浦に集乳所を建設する
- 〃14年 第3回長浜畜牛品評会を開催す 於津行
- 〃14年 トリコモナス病発生す
- 〃16年 国師保氏飼育牛エロニーオームスビー第7号は高等登録体格検査に於て80点で合格す 最高乳量2斗4升産出す
- 〃18年 大東亜戦争